

静岡県立大学短期大学部

令和5年度 前期・通年科目 社会人聴講生・科目等履修生用 科目一覧

No.	科目名	担当教員	単位数	備考
1	現代と哲学	中尾 健二	2単位	} 同時開講のため、複数の聴講はできません。
2	生活の化学	大内 仁志	2単位	
3	権利擁護と成年後見制度	高木 誠一	1単位	
4	現代と歴史	厚地 淳司	2単位	} 同時開講のため、複数の聴講はできません。
5	文学	西田 勝	2単位	
6	生命と倫理	堂園 俊彦	2単位	
7	言語と表現	鶴橋 俊宏	2単位	} 同時開講のため、複数の聴講はできません。
8	国際関係論	金 美連	2単位	
9	地球環境論	雨谷 敬史	2単位	
10	音楽通論	山本 学	2単位	} 同時開講のため、両方の聴講はできません。
11	生活と法	根本 猛	2単位	
12	地域社会論	志田 倫子	2単位	} 同時開講のため、両方の聴講はできません。
13	生物学	増澤 武弘	2単位	
14	実用英会話	モナ サナエ 高須	2単位	通年科目。月曜2限、月曜3限、金曜3限のいずれか。前期金曜3限開講分について、後期期間は水曜3限に開講。
15	データサイエンス入門	高田 佳輔	2単位	担当教員との事前相談が必要。
16	公的扶助論	中澤 秀一	2単位	
17	社会福祉原論 I	江原 勝幸	2単位	
18	子ども家庭福祉	佐々木 将芳	2単位	
19	社会保障論 I	中澤 秀一	2単位	
20	地域福祉と包括的支援体制	江原 勝幸	2単位	No. 14の月曜3限開講分を聴講する場合は聴講できません。

科目名	現代と哲学	The Modern Age and Philosophy		
学科(専攻)・学年	全学科・1年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	中尾 健二			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科 DP4 社会福祉学科 DP1 こども学科 DP5			
授業の目的(GIO)	何本かの韓国映画ならびにドラマを教材として、そこで提起されている問題は何かを考え、作品を深く理解し、自分の問題として受け止め、発展させる。これによって感受性と思考力の涵養に資することを目的とする。			
授業の到達目標(SBOs)	隣国である大韓民国について高校段階で学習した日本史・世界史の知識をふまえ、さらにそれを深化させる。高校段階までだと表層的な知識にとどまるきらいを認めないが、この授業では19世紀末から現在までに範囲を限定することによって一日本史であれば明治維新前後から現在に対応一、隣国の歴史の少し詳しい知識を習得する。同時にその歴史上の出来事がいかなる意味があるのかを考えてみる。また教材として映像作品を活用することによって、ひとりひとりの人間がその歴史をどう生きたかを感じさせ考えさせることで、今自分がどう感じ考えるか、どう生きるかに反照させる。いわば鏡として隣国を用いてみることで、国際理解を一歩すすめて、自文化ならびに自己への反省能力を向上させることが、この授業の到達目標である。			
授業の計画と内容	第1講 ガイダンスにかえて『ミスター・サンシャイン』の世界とは一 第2講 『ミスター・サンシャイン』の世界 I 一併合以前の朝鮮の攘夷と開化一 第3講 『ミスター・サンシャイン』の世界 II 一身分制社会と義兵ネットワーク一 第4講 『金子文子と朴烈』I 一植民地時代の日朝一 第5講 『金子文子と朴烈』II 一三一独立運動と関東大震災一 第6講 『金子文子と朴烈』III 一もう一つの大逆事件一 第7講 『雪道』I 一植民地時代の朝鮮の農村風景一 第8講 『雪道』II 一女子労働挺身隊と戦時性暴力一 第9講 『雪道』III 一戦時性暴力と現在の意識一 第10講 『ペパーミント・キャンディ』I 一初恋の行方一 第11講 『ペパーミント・キャンディ』II 一兵士の光州事件一 第12講 『ペパーミント・キャンディ』III 一経済発展の光と影一 第13講 『アナザーストーリーズその時、市民は軍と闘った』一軍事独裁政権と光州事件一 第14講 『1987、ある闘いの真実』I 一真実をめぐる闘い、あるいは民主化への改心一 第15講 『1987、ある闘いの真実』II 一日本と韓国の今一			
評価の方法	ユニバにアップしてもらう5回のミニレポート(60%)と期末試験(40%)			
テキスト	ユニバにその都度資料をアップするので、必ず参照するように。			
参考書	韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史(キネ旬ムック、2015)、和田春樹『韓国併合 110年後の真実』(岩波ブックレット 1014、2019)、朴裕河『韓国ナショナリズムの起源』(河出文庫、2020)、朴裕河『帝国の慰安婦一植民地支配と記憶の闘い一』(朝日新聞出版、2014)、月脚達彦『福沢諭吉の朝鮮一日朝清関係のなかの「脱亜」』(講談社選書メチエ、2015)など。			
学生へのメッセージ	適宜 Netflix, AmazonPrime といった動画配信サイトを自主的に利用してもらって授業を進めます。日々の日韓関係のニュースにも関心をもっていただければと思います。			

科目名	生活の化学	Chemistry in Life		
学科(専攻)・学年	歯科衛生学科1年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	大内 仁志			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科 DP2			
授業の目的(GIO)	この世界を生きる上で、化学と我々の社会生活は、切り離すことができないほど密接に関係している。我々が理解しているか否かに関わらず、ミクロの世界では絶えず化学的な現象が起きている。それを理解することは、生活の中で類似製品からベストなものを選択する根拠となったり、環境問題の本質を理解する一助となったりする。本講義では、これまで化学を専攻してきていない初学者を主な対象に、我々の身近な生活において化学がどのように関わっているのかを学び、化学的な視点から物事を見るための基礎的な知識を得ることを目的とする。			
授業の到達目標(SBOs)	<p>&lt;知識・理解の観点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・化学の基礎となる原子・分子・イオンについて説明できる。</li> <li>・エネルギーと環境に関連する化学について説明できる。</li> <li>・生物の生命活動に関連する化学について説明できる。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断の観点&gt;</p> <p>化学的根拠に基づいて、得られた情報の真偽を検証しようと考えることができる。</p> <p>&lt;関心・意欲の観点&gt;</p> <p>日常生活において様々な製品を購入するか否か、広い視野に立って合理的に判断できる。</p> <p>&lt;態度の観点&gt;</p> <p>出席し、真面目に聴講し、課題を提出する。</p>			
授業の計画と内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 化学で用いる単位について</li> <li>2. 原子と元素について</li> <li>3. 化学結合について</li> <li>4. エネルギーと暮らしについて</li> <li>5. 食品のエネルギーについて</li> <li>6. 物理変化と化学変化について</li> <li>7. 水と溶液について</li> <li>8. 酸と塩基について</li> <li>9. 放射能の化学について</li> <li>10. 電子移動とエネルギーについて</li> <li>11. 洗淨の化学について</li> <li>12. くすりと遺伝子について</li> <li>13. 石油化学と環境汚染について</li> <li>14. 食品の微量成分について</li> <li>15. 環境と生命に関連する化学について</li> </ol>			
評価の方法	提出物90%、受講態度10%			
テキスト	D.P. Heller, C.H. Snyder 著、渡辺 正 訳『教養の化学－暮らしのサイエンス－』東京化学同人			
参考書	講義中に紹介します。			
学生へのメッセージ	高等学校で化学を履修しなかった学生も対象とした講義です。			

科目名	権利擁護と成年後見制度	Advocacy and Adult Guardianship System		
学科(専攻)・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・2年	単位数	1.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	* 高木 誠一			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科 DP1 DP4			
授業の目的(GIO)	近代の人権思想を理解し、今日の時代状況に即して検証する。 権利、人権とは何かを理解する。 権利擁護の法律や制度を理解する。 ソーシャルワーカーとしての成年後見事務を理解する。 虐待防止について考察する。			
授業の到達目標(SBOs)	1. 法の基本的な考え方について理解する。 2. 権利擁護の制度や事業について仕組みを理解する。 3. 利用者主体の援助、福祉現場における虐待防止を理解する。 4. 社会福祉士の役割として成年後見を理解し、その課題を考える。 5. 成年後見事務のプロセスを理解する。			
授業の計画と内容	第1講 人権、権利の概念の背景と意味について 第2講 人権侵害の実情と権利擁護の必要性について 第3講 権利擁護の活動の実践について 第4講 虐待防止の法制度や福祉現場での対応について 第5講 成年後見制度の概要について 第6講 成年後見制度の実務について 第7講 今日の成年後見制度の課題について 第8講 当事者者の語りと意思決定支援について			
評価の方法	授業の発言/課題レポート評価(50%)、試験レポート(A4で2枚、3200字:試験に代えます)(50%)			
テキスト	その都度資料を配布します。			
参考書				
学生へのメッセージ				

科目名	現代と歴史	The Modern Age and History		
学科(専攻)・学年	全学科・1年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	厚地 淳司			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科DP2 社会福祉学科DP2, DP4 こども学科DP1, DP5			
授業の目的(GIO)	①この授業は、現代の静岡県という地域に暮らしているわれわれに比較的身近な、原始・古代から近現代に至る、様々な歴史的な事象を主な内容とする。 ②第一の目的は、歴史を学ぶことを通じて、現代とは異なる社会の枠組みや価値観、すなわち「自己」とは異なる「他者」の存在を認識することにより、「自己」の生きる現代という時代を相対化して見る姿勢・能力を身につけることである。 ③現代という時代は、過去の蓄積である側面も持つ。第二の目的は、ここから現代社会が、いかなる歴史的な基盤が産み出したものであるのかについて、考察し理解するものである。			
授業の到達目標(SBOs)	①授業において取り上げる歴史的諸事象について記述あるいは説明することができる。 ②授業において取り上げる歴史的諸事象と現代の身近な事象との関連を考えることができる。 ③上記の①②を踏まえて、現代社会の課題を見つけ出す、あるいは考えることができる。 ④毎回の講義に関するワークシートに記入する。			
授業の計画と内容	第1講 ガイダンス 第2講 歴史学の方法と歴史を学ぶ意義 第3講 先史時代の社会と文化—埋蔵文化財保護の問題を考える— 第4講 須恵器から六古窯へ—身近な生活用具の素材の歴史をさぐる— 第5講 荘園制の成立と展開—地名から地域の歴史をさぐる— 第6講 頼朝の生涯—日本史の転換点と静岡県地域その1— 第7講 箱根竹之下の戦い—日本史の転換点と静岡県地域その2— 第8講 霊山寺梵鐘と鋳物師集団—地域社会形成の主体としての民衆— 第9講 戦国大名と国衆—権力と地域社会の関係を考える— 第10講 小田原攻めと駿河・伊豆—日本史の転換点と静岡県地域その3— 第11講 江戸時代の新田開発—持続可能な開発とは?— 第12講 江戸時代民衆の運動と思想—民衆の知的力量をさぐる— 第13講 明治維新の政権構想と自由民権—「おおやけ」と「パブリック」— 第14講 廃藩置県・三新法・市町村合併—地域社会の将来を考える— 第15講 まとめ			
評価の方法	平常点(毎回の講義に関するワークシート)45%、期末レポート 55%			
テキスト	講義の際にプリントを配布する。			
参考書	講義の際に紹介する。			
学生へのメッセージ	歴史を学ぶことが、自身のアイデンティティを再確認し、自分たちの未来について考えるきっかけとなることを願っています。			

科目名	文学	Literature		
学科(専攻)・学年	全学科・1年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	* 西田 勝			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科 DP2 DP4 社会福祉学科 DP3 DP4 こども学科 DP2 DP5			
授業の目的(GIO)	<p>言葉について考え、コトバについて感じ、ことばを使って知ってもらふ。人の生は、他人との関わりの中にしかない。自分の心でさえもが分からないのに、どうして他の人の心がかかるのだろうか。</p> <p>人は人に寄り添う。どうしたら人に寄り添えるのか。それに全力を尽くす。道具として、言葉を使う。</p> <p>「言葉」だけで出来ているのが芸術の一つとしての文学だ。</p> <p>文学の学びとは、他の人に寄り添う仕方の学び。言葉は、想いを伝え、思い出を、人の心の中に残す役目をする。悲しい私、嬉しい私、さみしい私。いろいろな私を、かたちづくるものは言葉だ。いろいろな私があり、いろいろな私に出会う。それはいろいろな言葉に出会うことでもある。たまには他人の悲しみ、楽しみに出会う。</p> <p>いろいろな言葉、いろいろな感覚。いろいろな言葉がいろいろな人との出会いの中で残されていく。</p> <p>心の中にいろいろな言葉を貯める。言葉の貯金は心を豊かにして行く。心の豊かな人間の人生は幸せだ。</p> <p>文学は、人が生きる、それを捉え、感じ、考える。人生に幸せの一瞬を感じる。そのために言葉の世界の学びはあります。文学は言葉の学びであり、言葉の学びは、人に寄り添い、人をいとしく想い、いとしい人への想いに幸せを知る人生の達成の実現を目指すものであるといえましょう。</p>			
授業の到達目標(SBOs)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講「ことば」について意識する。</li> <li>2 講での学びで「ことば」について多角的に意識できるようになること。</li> <li>3 講での学びで「ことば」は音であることを理解する。</li> <li>4 講でのまなびで「ことば」は文字であり、音、文字などの複合体であることを理解できること。</li> <li>5 講では「ことば」の受容システムについて知ることができること。</li> <li>6 講で「ことば」の認知について考えられること。</li> <li>7 講で「ことば」の認知システムについて知る。</li> <li>8 講では認知のワーキングメモリーについて知る。</li> <li>9 講では音韻ループについて知る。</li> <li>10 講ではメモリーの数と認知との関係について知る。</li> <li>11 講「ことば」をめぐるハンディキャップについて知る。</li> <li>12 講では「ことば」の認知システムについて総合的に認識できること。</li> <li>13 講自分以外の人間と向き合うためのツールを獲得できること。</li> <li>14 講で内在的な潜在している自己への希求を 17 音の「ことば」をもってすることができること。</li> <li>15 講では 31 音での自己表現が出来ること。</li> </ol>			
授業の計画と内容	<p>授業は、基本的には講義形式で進めます。</p> <p>皆さんが、言葉で作品を創る、表現をする時間を設定したいと考えています。</p> <p>みなさんのみずみずしい感性のコトバを、文学という入れ物に入れてみましょう。</p> <p>ただ聴くのではなく、文学する、それぞれが文学をする時間だと考えてください。</p> <p>第1 講 視覚情報に偏った読むことによる価値の幻想</p> <p>第2 講 「ことば」の受容とはどのようなことか</p> <p>第3 講 読むこと をめぐって</p> <p>第4 講 聴くこと をめぐって</p> <p>第5 講 聴くこと、読み聞かせること、読み聴くことをめぐって</p> <p>第6 講 言葉の受容システムの学び</p> <p>第7 講 認知のシステムの学び</p> <p>第8 講 ワーキングメモリー 音韻ループ について考えてみる</p> <p>第9 講 音韻ループ</p> <p>第10 講 メモリーの数と認知の関係について</p> <p>第11 講 「ことば」が分からないということ</p> <p>第12 講 コトバの認知について</p> <p>第13 講 他人との向き合い文学というレベルの「ことば」というものについて考えてみる</p> <p>第14 講 17 音の永遠</p> <p>第15 講 31 音の告白</p>			
評価の方法	<p>受講の態度、講義への取り組み姿勢、提出物などの総合的な評価をします。</p> <p>受講姿勢 40 パーセント、講義時間内での創作作品評価 50 パーセント、聴く力・話す力 10 パーセント。</p> <p>それらを総合して評価します。</p>			
テキスト	授業時にプリントを配布します。			
参考書	授業のすすみに従って紹介していきます。			
学生へのメッセージ	<p>ことばの世界の不思議に浸ってみるにはやわらかに、しつとりと、しずかに、耳を傾けること、そして少しの沈黙も必要です。</p> <p>自分のコトバのささやきを聴いてみませんか。</p> <p>&lt;教員の実務経験&gt;</p> <p>第1 講ではカルチャーセンターでの仕事体験を生かし、高齢者の「文学信仰」とも言うべき視覚偏重の理解のあり方について伝え、受講学生たちに自由な抑揚の有る頭の中でのメロディーとしての言葉の理解の重要性を説く。</p>			

科目名	生命と倫理	Biology and Ethics		
学科(専攻)・学年	歯科衛生学科・1年 社会福祉学科社会福祉専攻・2年 社会福祉学科介護福祉専攻・1年 こども学科・2年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	堂園(どうぞの)俊彦			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科 DP2, DP4 社会福祉学科 DP1, DP4 こども学科 DP2			
授業の目的(GIO)	先端技術の進展、さらには人々の価値観の多様化にともない、生命をめぐる様々な問題が議論されています。この講義では、そうした問題に関してどのような考え方があるのかを理解すること、さらには、そうした問題を自ら考え議論する力を身に着けることを目的とします。			
授業の到達目標(SBOs)	1) 現代においてどのような事柄をめぐる、いかなる対立が生じており、さらにはどのような解決策が示されているのかを説明できるようになる。 2) 生命をめぐる問題に関して、論理的に思考し、議論することができるようになる。			
授業の計画と内容	1.生命の倫理をめぐる歴史と基本原則について 2.インフォームド・コンセントの基本的な考え方 3.ディスカッションー宗教上の信念にもとづく治療拒否 4.がんの告知 5.人工妊娠中絶 6.ディスカッションー選択的人工妊娠中絶 7.生殖補助医療 8.人を対象とする医学系研究 9.安楽死 10.ディスカッションー治療の不開始は許されるか 11.遺伝と医療 12.HIV／エイズ 13.医療資源の配分 14.ディスカッションー誰から救うべきか 15.動物倫理			
評価の方法	定期試験(100%)			
テキスト	特になし。			
参考書	赤林朗他『入門・医療倫理 I[改訂版]』, 勁草書房, 2017. 木村利人監修『看護に生かすバイオエシックス』, 学研, 2004.			
学生へのメッセージ	倫理を考えることは決して簡単なことではありませんが、私たちの日々に欠かせないものですし、とりわけ人をケアする職業にとっては不可欠です。この講義を通じて、倫理に関して真剣に、そして粘り強く考える力を身につけてほしいと思っています。			

科目名	言語と表現	Linguistics		
学科(専攻)・学年	歯科衛生学科・1年 社会福祉学科社会福祉専攻・2年 こども学科・2年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	鶴橋 俊宏			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科 DP2 社会福祉学科 DP4 子ども学科 DP5			
授業の目的(GIO)	1. 主として日本語を対象とし、音声・音韻、語彙、文法など言語学の諸分野について概説する。言語学的なものの捉え方を理解することを目指す。 2. ことばの意味や文の構造についての知識を得ることを目指す。			
授業の到達目標(SBOs)	1. 言語の単位についての知識を得る。 言語の構造を分析的に把握する能力を得る。 ことばの意味を分析的にとらえられる。 2. ことばの論理性とは何かを説明できる。 演繹と帰納の違いについての知識を得る。 定義、分析に関する知識を得る。			
授業の計画と内容	1. 言語の明晰性とは何か(オンデマンド) 2. 音声のはたらき(オンデマンド) 3. レトリックⅠ 直喩、隠喩、換喩、提喩(オンデマンド) 4. レトリックⅡ レトリックと認識、詭弁(オンデマンド) 5. 語義とはⅠ 語義の拡張(オンデマンド) 6. 語義とはⅡ 類義語と denotation、connotation 7. 語義とはⅢ 上位語と下位語、類概念と種概念 8. 語の位相 9. 文法Ⅰ 主語と主題 10. 文法Ⅱ 敬語 11. 文体 12. 推論の方法 13. テキスト批判あるいは critical reading 14. 定義を正しく定義する 15. 分析とは何か			
評価の方法	試験70%、平常点30%			
テキスト	「言語と表現」(私家版・配布)およびプリント			
参考書	授業時に指示			
学生へのメッセージ	ことばによる表現を考えるということは、上手に話したり書いたりする「錬金術」を求めることではなく、深く考え、自分自身と向かい合う経験である。批判的精神と論理的思考を以て主体的に考える経験を通してのみ、技法は技法として生きるものであることを忘れないでほしい。 補講はオンデマンドで行う。 講義はオンデマンドと集中講義で行う。			



科目名	国際関係論	International Relations		
学科(専攻)・学年	全学科・2年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	金美連			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科 DP2, DP4 社会福祉学科 DP1, DP4 こども学科 DP1			
授業の目的(GIO)	本講義では、国際関係の歴史と現実を良く理解することを目的とする。前半では、第二次世界大戦以後の国際関係の構造、その変容過程を歴史的に概観する。後半では、国際社会の主要課題である平和、環境、開発、人権といったテーマを取り上げる。			
授業の到達目標(SBOs)	①第二次世界大戦後から現在に至るまでの世界の動向について理解できる。 ②国際社会が当面している問題について理解できる。 ③国際社会と日本の関係について理解できる。			
授業の計画と内容	第1講 講義の概要や国際関係論の必要性について 第2講 国際関係論の誕生の背景や研究対象について 第3講 米ソ冷戦の歴史やアジアの冷戦構造について 第4講 冷戦終結の原因や過程について 第5講 グローバリゼーションとリージョナリズムの意味や現状について 第6講 国連の目的や活動について 第7講 国際文化論の具体的な形態について 第8講 日韓文化の違いについて 第9講 宗教の定義や分類について 第10講 民族紛争の原因やパターンについて 第11講 アメリカの公民権運動や南アフリカ共和国のアパルトヘイトについて 第12講 地球環境問題の原因や国際的な取り組みについて 第13講 南北問題を説明する理論や取り組みについて 第14講 戦後の日本外交について 第15講 21世紀の国際社会について			
評価の方法	レポート40%、テスト60%			
テキスト	毎回プリントを配布する。			
参考書	授業中に随時紹介する。			
学生へのメッセージ	国際社会に目を向けると自分の世界観も広がります。世界史をとってなくても、国際情勢についてあまり知らなくても結構です。日本や世界のことを内と外の視点から論じ合いましょう。			

科目名	地球環境論	Global Environment		
学科(専攻)・学年	全学科・2年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	* 雨谷 敬史			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科 DP2 社会福祉学科 DP1 こども学科 DP5			
授業の目的(GIO)	地球上の人口は増加の一途を辿っているが、地球上の資源は有限であり、我々は地球環境を意識して生活せざるを得ない状況になっている。地球環境に関する問題の一つ一つを考えていくことにより、今後我々がどのように行動していけばよいのかを考え、理解する。			
授業の到達目標(SBOs)	地球環境で、何が問題となっているかを把握する。このなかでも、世界の人口増加や資源枯渇、気候変動、成層圏オゾン層破壊、酸性雨、残留性有害化学物質汚染、室内汚染などの諸問題について、それぞれの原因・地球環境への影響・国際的な取り組み・技術的な対策・我々にできる対策について考え、現状を踏まえて自分の意見を述べる。			
授業の計画と内容	第1講 ガイダンス、身近な環境問題 第2講 世界の人口問題と限りある資源 第3講 地球環境問題の歴史 第4講 持続可能な開発とSDGs 第5講 気候変動問題とは何か 第6講 気候変動問題の原因 第7講 気候変動問題に対する国際的な取り組み 第8講 気候変動問題対策・環境家計簿 第9講 成層圏オゾン層の役割とその破壊 第10講 成層圏オゾン層への国際的な取り組みと我々にできること 第11講 酸性雨とは～酸性とは、原因物質は何か 第12講 酸性雨に対する国際的な取り組みと我々にできること 第13講 残留性有害化学物質問題とダイオキシン 第14講 環境リスク論と化学物質・微生物や放射線のリスク 第15講 室内汚染・シックハウスと我々の健康			
評価の方法	毎回、授業の内容について、現状を踏まえて疑問点を調べたり、自分の意見を述べたりした内容の文書ファイルを作成し、ユニパ経由で提出する。この内容を評価する(100%)			
テキスト	プリント等			
参考書	よくわかる専門基礎講座:公衆衛生(松木秀明編、金原出版)、 ヒューマンエコロジー(野上啓一郎編、共立出版)、 地球環境ハンドブック(不破敬一郎編、朝倉書店)など			
学生へのメッセージ	世の中にはいろいろな情報が氾濫しています。特に、地球環境については、あやしい情報もたくさん飛び交っています。何が正しいかを見定める力を養いましょう。 第2-3回目の授業では、途上国の環境問題を論じる部分において、担当教員がJICAの環境専門家として派遣された経験を元に、環境問題の実態とその対応策について解説します。			

科目名	音楽通論	Introduction to Music		
学科(専攻)・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・2年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	山本 学			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科 DP1			
授業の目的(GIO)	音楽を通じて芸術的感性と素養を養うこと、および幅広い教養を得ることを目的とする。 街で耳にしたあのクラシック音楽はなんて曲だろう、いろいろなジャンルの音楽の美しさとその背景について知りたい、楽譜が読めるようになりたい、そんな思いに教養科目として答えたいと考える。音楽の通論として広く一般的に論ずるために、音楽史、演奏、鑑賞、楽典(音楽理論)を有機的に複合しながら理解していく方法で講義を進めていく。			
授業の到達目標(SBOs)	○クラシックを中心にその他多岐に渡るジャンルの音楽に触れ、その構造を理解する。 ○楽譜の基本的な仕組みについて理解し、初歩の読譜力を身につける。 ○音楽を通じて、芸術的感性と素養を養う。			
授業の計画と内容	第1講 西洋音楽史の俯瞰／音名／のだめカンタービレとクラシック音楽(第5講まで) 第2講 古代・中世の音楽／音と音楽の概念・要素 第3講 ルネサンスの音楽1／楽譜の読み方1 譜表 第4講 ルネサンスの音楽2 C.モンテヴェルディ“ecco mormorar l'onde”／楽譜の読み方2 クレ読み 第5講 バロックの音楽1ヘンデル／楽譜の読み方3 まとめ 第6講 バロックの音楽2 J.S.バッハ／拍子記号と音符の長さ／指揮者 C.クライバーの音楽 第7講 古典派の音楽 モーツァルト／4拍子のリズム／指揮者小澤征爾の音楽 第8講 古典派からロマン派へ /3拍子のリズム／サン＝サーンス“動物の謝肉祭” 第9講 ピアノ鍵盤と連弾／日本の年末のクラシック・ベートーヴェン“第九” 第10講 ロマン派の音楽 シューマン、メンデルスゾーン、ブラームス、リスト、ショパン 第11講 近代の音楽 ドビュッシー、ラヴェル、ラフマニノフ 第12講 オペラ・ミュージカルの魅力1 ビゼー“カルメン”第1幕、第2幕もしくはミュージカルシネマ前半 第13講 オペラ・ミュージカルの魅力2 ビゼー“カルメン”第3幕、第4幕もしくはミュージカルシネマ後半 第14講 現代の音楽 S.ライヒ“city life”(サウンドスケープ、ミニマル、サンプリング、言葉の旋律) 第15講 ワールドミュージックとクロスオーバー			
評価の方法	授業中の提出物 70%、期末レポート 30%により評価する。			
テキスト	授業中に適宜、資料を配布する。			
参考書	特になし			
学生へのメッセージ	この授業でたくさんの音楽に触れ、その背後にある深淵な世界に思考と感性を広げていきましょう。			

科目名	生活と法	Life and Law		
学科(専攻)・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・1年 社会福祉学科介護福祉専攻・1年 こども学科・1年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	根本 猛			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社福祉学科 DP1 DP4 こども学科 DP4			
授業の目的(GIO)	身のまわりの法律問題に触れるなかで、法や裁判に関心を持つ。			
授業の到達目標(SBOs)	長い人生のなかで困ったとき、法や裁判が役立つかもしれないことを思い出せる。また、そのための必要最低限の知識を身につける。			
授業の計画と内容	第1講 借りましたお金を返せという判決に従わないと刑務所？ 強制労働？ 一法とは 第2講 結婚するかどうかは誰が決める？ 第3講 妊娠しちゃったけど産まないのも自由？ 第4講 離婚と相続 第5講 悪質商法にだまされるな－消費者の保護 第6講 お金を借りたいときは？－利息制限法 第7講 快適な賃貸をめざせ－借家人の保護 第8講 有給休暇を申請したら断られた－労働者の保護 第9講 マージャンでお金を賭けたらマズい？－刑法とは 第10講 もうかるハナシはリスクが大きい－株式市場とは 第11講 憲法とは－立憲主義と日本国憲法の生い立ち 第12講 「普通の国」には軍隊が…日本の平和は？－平和主義 第13講 男も女も育児休業できる！－法の下での平等 第14講 退廃的なポルノや邪教は禁止したほうがよい？－心の自由 第15講 週 60 時間働いて時給 600 円でも仕方がない？－社会権			
評価の方法	毎回の課題の評価(9割程度)+期末試験(1割程度)			
テキスト	副田隆重他『ライフステージと法』有斐閣			
参考書	初宿正典他『いちばんやさしい憲法入門』有斐閣			
学生へのメッセージ	大学生になったら、新聞を読みましょう。選挙のときは投票しよう。			

科目名	地域社会論	Sociology of Community		
学科(専攻)・学年	全学科・1年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	志田 倫子			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科 DP4 社会福祉学科 DP2、DP3 こども学科 DP1			
授業の目的(GIO)	<p>今日、都市化・国際化・情報化に見られる社会のグローバル化が進展する一方で、改めて身近な生活の場である地域社会・コミュニティに関心が集まっています。かつて生活の基礎・基盤をなしてきた共同体的な地域社会は、都市化の過程で崩壊したかに思われましたが、その後再びその役割が目立ってきて、これまでとは違った形で形成されてきました。講義では地域社会の定義、都市化による地域社会の衰退、コミュニティ形成に至る経緯やその方法などを理解します。その上で、福祉社会として現代社会を特徴づける地域福祉と、その根幹をなす福祉コミュニティや、グローバル化社会における地域社会での外国人との共生等について実態を把握していきます。</p> <p>さらにこうした中で、現代の地域社会において特徴的に見られる、ボランティア・NPO 参画型や伴走者が支援するまちづくりにも触れていきます。</p> <p>国内のコミュニティ形成の特徴的な事例を中心に扱っていきますが、静岡県内(掛川市、静岡市宇津ノ谷地区)についても取り上げていきます。</p>			
授業の到達目標(SBOs)	都市・農村、コミュニティ研究について概観し、戦後の日本のコミュニティ形成について理解を深める。			
授業の計画と内容	<p>はじめに</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義概要・地域社会論へのアプローチ</li> <li>1 農村から都市へ、コミュニティ形成への流れ(基本編)</li> <li>2 日本の農村社会</li> <li>3 都市化社会(1)ー都市化社会とはー</li> <li>4 都市化社会(2)ーイギリスの産業革命ー</li> <li>5 都市化社会(3)ーシカゴ学派の都市社会学ー</li> <li>6 日本のコミュニティ形成(1)ー生活の場における人間性の回復ー</li> <li>7 日本のコミュニティ形成(2)ーコミュニティづくりの条件と進め方ー</li> <li>8 掛川市の生涯学習まちづくり運動ーとはなにか学舎の講座のシステムー</li> </ol> <p>II 地域社会の現状分析(応用編)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9 エスニック集団と地域社会</li> <li>10 高齢化社会への対応</li> <li>11 男女共同参画のまちづくり</li> <li>12 震災復興のまちづくり①</li> <li>13 震災復興のまちづくり②</li> <li>14 地域福祉の展開</li> <li>15 市民講座と静岡市宇津ノ谷地区のまちづくり</li> </ol>			
評価の方法	試験結果(70%)、授業中の提出物(30%)			
テキスト	テキストは指定しませんが、地域社会学や関連の基本的な参考図書を授業中に紹介します。			
参考書	高橋勇悦(監修)2013『改訂版 21世紀の都市社会学』学文社 三浦典子・横田尚俊他(編著)2017『地域再生の社会学』学文社 森岡清志(編)2008『地域の社会学』有斐閣アルマ 森岡清志・北川由紀彦(編著)2018『都市と地域の社会学』放送大学教育振興会			
学生へのメッセージ	生活に密着した地域社会の現状、変化、問題に絶えず関心をもち、あわせて、地域社会で自分が何ができるかを考えながら授業にのぞんでください。			

科目名	生物学	Biology		
学科(専攻)・学年	全学科・1年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	増澤 武弘			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科 DP1, DP2 社会福祉学科 DP4 こども学科 DP1, DP5			
授業の目的(GIO)	生物の世界に目を向けると、その多様性のすばらしさに目を見張らざるを得ない。それは DNA から細胞・個体・群集・生態系における、ミクロからマクロまでのすべてのレベルに共通している。本講ではおもにマクロな視点から講義を進めるが、理解を深めるため、できるだけ地球上の代表的な生態系を例に挙げ解説を行う。			
授業の到達目標(SBOs)	生物多様性が近年注目されるようになった。生物は地球上に誕生して38億年かけて進化し多様性を増大させてきたが、本講義では生物多様性の成立や維持に関わることを学び、急速に失われつつある地球上の生物多様性の重要性について考え、理解する。また、近年の環境変動についても身近な例をあげ説明し、その変動と生物多様性について解説する。15回の各講義において、生物の進化を通して、生物の生き方と環境に対する適応能力について考え理解することができる。			
授業の計画と内容	第1講 はじめに—生物学とは—原核生物・真核生物(ウイルス、細菌、古細菌) 第2講 生命の起源と進化(コアセルバート、DNA、RNA、細胞内共生、植物細胞、動物細胞) 第3講 環境と生物(環境形成の歴史)、海から陸へ(シアノバクテリア、ストロマトライト、マダガスカル) 第4講 環境要因(水、光、温度、空気)、作用と環境形成作用(非生物的環境、生物的環境) 第5講 環境適応と生物の種分化、生物の進化(化学進化、ミラーの実験、アミノ酸) 第6講 進化(ダーウィンの進化論、ガラパゴス諸島、ダーウィンフィンチ、ガラパゴスペンギン) 第7講 生物の生き方(生態的地位、競争)、生物の多様性(遺伝子、種、生態系の多様性) 第8講 種 Species、種の生活(生活史)、繁殖様式 第9講 個体群、群落(分布、ハビタート、個体群の相互作用、森林の階層構造) 第10講 生態系(北極、南極、ヒマラヤ、アンデス、富士山ほか) 第11講 生態系の多様性(日本列島、熱帯雨林アマゾン、ガラパゴス諸島、マダガスカル島、ペルー砂漠) 第12講 里地・里山・高山植生(北アルプス、南アルプス、氷河期) 第13講 海岸植生(東北海岸、東海地域海岸) 第14講 生物多様性と自然の恵み(生態系サービス) 第15講 まとめ—地球と生物の将来—SDGs・気候変動			
評価の方法	レポート(20%)、期末テスト(80%)による			
テキスト	指定なし			
参考書	講義中に紹介します。			
学生へのメッセージ	講義中に質問時間をとります。講義終了時にも質問・討論の時間を取ります。多くの質問を期待しております。シラバスは対面授業かオンライン授業かにより、若干の変更があります。授業の内容にはできるだけ画像を取り込み、生物の諸現象を身近に感じられるように工夫します。			

科目名	実用英会話	Practical English Conversation		
学科(専攻)・学年	全学科・1年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 通年	授業区分	演習	聴講可
担当教員	MonnaTakasu			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科 DP1、DP5 社会福祉学科 DP5 こども学科 DP3			
授業の目的(GIO)	This is a basic conversation class. At first students may feel uneasy and not understand what is being said. This is natural. The goal is to be able to gradually get used to being in an only English environment and to understand without Japanese interpretation. We will enjoy watching a video on related topics and actively share about yourself with your classmates.			
授業の到達目標(SBOs)	*To get to know your classmates through English *To get used to being in an English-only environment *To feel comfortable and not be afraid of making mistakes when speaking English *To enjoy English and be able to say "I can speak English more than before"			
授業の計画と内容	<p>First Semester</p> <p>1 Unit 0 Class overview: Learning goals and strategies</p> <p>2 Unit 1 Meeting people / talking about yourself</p> <p>3 Unit 1 Meeting people / asking questions</p> <p>4 Unit 2 Describing clothes – responding to questions about clothes</p> <p>5 Unit 2 Describing clothes – personal taste</p> <p>6 Review Units 1 &amp; 2, mini-test</p> <p>7 Unit 3 Giving advice for staying healthy / asking about partner's habits</p> <p>8 Unit 3 Giving advice for staying healthy – effect of happiness</p> <p>9 Unit 4 Giving directions – identifying places in the community</p> <p>10 Unit 4 Understanding directions – writing about where you live</p> <p>11 Review Units 3 &amp; 4, mini test</p> <p>12 Unit 5 Describing objects / materials</p> <p>13 Unit 5 Describing objects – writing and sharing about a special gift</p> <p>14 Unit 6 Talking about goals – asking about partner's goals</p> <p>15 Unit 6 Talking about goals – talking about your short/long – term goals</p> <p>Review Units 5 &amp; 6, mini test</p> <p>Mid- term test</p> <p>Second semester</p> <p>16 Unit 7 Talking about your past experiences</p> <p>17 Unit 7 Asking your partner about past experiences</p> <p>18 Unit 8 Describing nature and animals</p> <p>19 Unit 8 Asking about animals and nature / understanding a presentation about plants</p> <p>20 Review Units 7 &amp; 8, mini test</p> <p>21 Unit 9 Talking about abilities – sharing what you can and cannot do</p> <p>22 Unit 9 Talking about things you couldn't do in the past</p> <p>23 Unit 10 Asking about likes and dislikes / responding to questions about preferences</p> <p>24 Unit 10 Inviting people to do something with you</p> <p>25 Review Units 9 &amp; 10, mini test</p> <p>26 Unit 11 Talking about rules and laws in other countries</p> <p>27 Unit 11 Talking about what people should/ shouldn't do</p> <p>28 Unit 12 Telling stories – telling your partner a story</p> <p>29 Unit 12 Telling stories – understanding the order of events</p> <p>30 Review Units 11 &amp; 12, mini test</p>			
評価の方法	Participation in daily pair/ group work 30% Effort / Progress 25% Assignments 20% Tests 25%			
テキスト	English Firsthand Success 5th Edition			
参考書				
学生へのメッセージ	Welcome! ?This is a basic conversation class. There is also some writing assignments to help prepare you for speaking.			

科目名	データサイエンス入門	Introduction to Data Science		
学科(専攻)・学年	歯科衛生学科・1年 社会福祉学科社会福祉専攻・2年 こども学科・2年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可 (担当教員との事前相談が必要です)
担当教員	高田 佳輔			
ディプロマ・ポリシーとの関連	歯科衛生学科 DP2 社会福祉学科 DP4、DP5 こども学科 DP1、DP5			
授業の目的(GIO)	データサイエンスは近年の社会において重要かつ魅力的とされる科学です。本科目は、twitter や Instagram などの SNS 利用者のデータ、および、スポーツファンのデータを用いつつ、実際に自分たちでデータサイエンスを体験しながらその内実を学ぶ参加型の授業を展開します。データと言われると皆さんは縁遠いものと感じるかもしれませんが、データは案外、私たちの身近に存在しています。例えば、スマートフォンを用いてたくさんのデータを集めることが可能ですし、スマートフォンでそれを分析してしまいうこともできます。本授業では、データの利用・分析の手軽さを学びながら、その手軽さゆえに起こりうる統計を用いた「ウソをつかない・ウソに騙されないため」の統計リテラシーを獲得してもらうことを目指します。 また、データサイエンスとは、データを中心に、自然現象、社会現象を問わず、既存の学説や仮説を実践的に検証したり、物事の本質に関する情報を探索的に発見する方法論を開発したり、応用への道を開く学問分野です。つまり、問題設定から調査の実施、データの解析、分析結果から価値の創出までの一連の過程がデータサイエンスとなります。このような一連の過程によって問題解決に関する意思決定を行い他者に提案する能力は、現代社会のあらゆる場面において必要とされています。本授業は、みなさんに、あらゆる現場で実践可能なデータサイエンスに関する知識・能力を獲得してもらうことを目的としています。			
授業の到達目標(SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計による「ウソをつかない・ウソに騙されない」リテラシーを獲得する。</li> <li>・設定した問題に適した調査を設計できるようになる</li> <li>・問題設定に適したデータ解析手法を選択できるようになる。</li> <li>・基礎的なデータ解析手法を身につける。</li> <li>・解析結果から、価値の創造ができるようになる。</li> <li>・実際の調査データを用いてデータ解析から価値の創造まで行えるようになる。</li> </ul>			
授業の計画と内容	第1回 データサイエンスの社会における役割(1): データの有用性とウソ 第2回 データサイエンスの社会における役割(2): データサイエンスの各過程の重要性 第3回 調査の設計: データの取得方法(無作為抽出, 有意抽出), 管理方法 第4回 データ分析の実践(1): 平均値・標準偏差 第5回 データ分析の実践(2): 度数分布表・ヒストグラム 第6回 データ分析の実践(3): 要約統計量・箱ひげ図 第7回 データ分析の実践(4): t検定 第8回 データ分析の実践(5): 一要因分散分析 第9回 データ分析の実践(6): 二要因分散分析① 第10回 データ分析の実践(7): 二要因分散分析② 第11回 データ分析の実践(8): 相関係数 第12回 データ分析の実践(9): 単回帰分析 第13回 データ分析の実践(10): 重回帰分析 第14回 リアルなデータを用いた実習(1): SNS・ゲームアプリ利用者に利用頻度や対人関係について尋ねたデータを自由に分析① 第15回 リアルなデータを用いた実習(2): SNS・ゲームアプリ利用者に利用頻度や対人関係について尋ねたデータを自由に分析②			
評価の方法	小テストおよび提出物(40%), 期末レポート(60%)			
テキスト	指定なし。毎回資料を配布する。			
参考書	授業内で紹介する。基本的には当該回の授業の発展的な内容を扱う書籍を紹介する。			
学生へのメッセージ	標準的な中学校レベルの数学に対する理解と PC を扱うスキルが多少あれば、基本的には受講に関して問題ありません。データサイエンティストは近年、最も魅力的な職業とも言われています。職業にはせずつとも、データサイエンスに関する知識・能力については、今後の人生において、何かを説得的に提案する時や、ウソの統計に騙されない・統計を用いてウソをつかないために等、多くの場面において役立つことでしょう。			



科目名	公的扶助論	Public Assistance		
学科(専攻)・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・2年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	中澤 秀一			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科 DP2、DP4			
授業の目的(GIO)	生活保護制度を中心に生活困窮者への施策について学ぶとともに、格差や貧困についてその実態だけではなく歴史のおよび理論的なアプローチから理解できるようにする。			
授業の到達目標(SBOs)	<p>貧困問題については、歴史・理論・実態等を系統立てて理解できるようにする。生活保護制度については、制度体系・課題等を系統立てて理解できるようにする。</p> <p>そのうえで、生活保護制度が支援の現場でどのように活用されているのか、自らの問題としてもとらえられる力を身につけられるようにする。</p>			
授業の計画と内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 公的扶助史(イギリス)</li> <li>3. 公的扶助史(貧困調査)</li> <li>4. 公的扶助史(日本)</li> <li>5. 生活保護制度(法目的と原理)</li> <li>6. 生活保護制度(原則)</li> <li>7. 生活保護制度(保護基準)</li> <li>8. 生活保護制度(保護の種類)</li> <li>9. 生活保護制度(実施体制)</li> <li>10. 生活保護制度(保護の動向)</li> <li>11. 生活保護制度(保護施設と低所得者への施策)</li> <li>12. 現代の貧困と生活の社会化</li> <li>13. 朝日訴訟</li> <li>14. 生活困窮者自立支援制度</li> <li>15. 総括</li> </ol>			
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学期末の筆記試験(90%)</li> <li>・ レポート(10%)</li> </ul>			
テキスト	授業内でプリント配布			
参考書				
学生へのメッセージ				

科目名	社会福祉原論 I	Introduction to Social Welfare and Social Work I		
学科(専攻)・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・1年 こども学科・1年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	江原 勝幸			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科 DP1、DP2、DP4 こども学科 DP1、DP4、DP5			
授業の目的(GIO)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。</li> <li>2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>3. 社会福祉における相談援助について理解する。</li> <li>4. 社会福祉における利用者の保護に関する仕組みについて理解する。</li> <li>5. 社会福祉の動向と課題について理解する。</li> </ol>			
授業の到達目標(SBOs)	人権尊重を核とする社会福祉の原理や理念について理解し、社会福祉の法・制度や相談援助の基盤について説明することができる。			
授業の計画と内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の理念と概念</li> <li>2. 社会福祉の歴史の変遷(1):社会的弱者と措置制度</li> <li>3. 社会福祉の歴史の変遷(2):基礎構造改革と利用契約制度</li> <li>4. 子ども家庭支援と社会福祉</li> <li>5. 社会福祉の制度・法体系と社会保障及び関連制度の概要</li> <li>6. 社会福祉行財政と実施機関</li> <li>7. 社会保障及び関連制度の概要</li> <li>8. 相談援助の理論と意義・機能</li> <li>9. 相談援助の対象・過程と方法・技術</li> <li>10. 利用者主体と保護(1):情報提供と第三者評価</li> <li>11. 利用者主体と保護(2):権利擁護と苦情解決</li> <li>12. 少子高齢化社会における子育て支援</li> <li>13. 共生社会の実現と障害者施策</li> <li>14. 在宅福祉・地域福祉の推進</li> <li>15. 諸外国の動向と内発的福祉文化の創造</li> </ol>			
評価の方法	授業への取り組み(20%)、授業内ワークシート(15%)、提出課題(15%)、定期試験(50%)			
テキスト	各講義においてレジュメ・資料を配布する。			
参考書				
学生へのメッセージ				

科目名	子ども家庭福祉	Child and Family Welfare		
学科(専攻)・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・1年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	* 佐々木 将芳			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科 DP2、DP4			
授業の目的(GIO)	<p>保育・社会福祉専門職としての基本的知識として、現代社会における子ども家庭福祉の重要性を理解することを目的とする。</p> <p>そのために、今日の子ども・家庭を巡る諸状況を歴史的な文脈の中で検証し、理解する力を身につける。</p> <p>また、制度改革の背景にも着目しながら、子ども家庭福祉のこれからの方向性、現時点における支援方法と実践課題について、総合的かつ具体的な考察を行う。</p>			
授業の到達目標(SBOs)	<p>子ども家庭福祉について、歴史的な文脈の中でその重要性を理解し、説明できる。</p> <p>児童福祉施設の現場で起きている事件や問題から、社会的背景と本質を学ぶことができる。</p> <p>子ども家庭福祉に関する諸問題を社会のしくみと関連づけて、歴史的・社会的にとらえる力を身につけることができる。</p>			
授業の計画と内容	<p>第1回 子ども家庭福祉とはなにか</p> <p>第2回 子どもと家庭(家族)を取り巻く現状について</p> <p>第3回 子どもの人権保障(子ども観について)</p> <p>第4回 子どもの人権保障(子どもの権利運動と子どもの権利条約)</p> <p>第5回 子どもの人権保障(日本における子どもの権利保障)</p> <p>第6回 子ども家庭福祉の成立と展開(海外における子ども家庭福祉の歩み)</p> <p>第7回 子ども家庭福祉の成立と展開(日本における歩み)</p> <p>第8回 子ども家庭福祉の法体系の理念</p> <p>第9回 子ども家庭福祉の実施体制</p> <p>第10回 子ども家庭福祉実践における児童相談所について</p> <p>第11回 子どもの健全育成</p> <p>第12回 保育施策と待機児童問題</p> <p>第13回 母子保健サービス</p> <p>第14回 DV問題と子ども虐待への対策</p> <p>第15回 障害をもつ子どもと家族への保育・教育・福祉施策</p>			
評価の方法	授業への取り組みと感想などの提出物 10%、確認テスト 20%、最終レポートの提出 70%			
テキスト	喜多一憲 監修 堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ボックス 子ども家庭福祉』 みらい 2020			
参考書				
学生へのメッセージ				

科目名	社会保障論 I	Social Security I		
学科(専攻)・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・1年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	中澤 秀一			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科 DP2、DP4			
授業の目的(GIO)	現代社会において、誰にとっても必要となる社会保障制度について、基本的な考え方としくみを理解することを目的とします。具体的には、どのようなリスク(病気・障害・加齢・失業等)に直面しても生活が困窮しないように、年金保険制度、医療保険制度、雇用保険制度、介護保険制度等の社会保障制度についての基礎知識を身につけます。			
授業の到達目標(SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障制度のしくみをリスクごとにそれぞれ理解する</li> <li>・社会保障制度がどのような場面で利用されているのかをより身近な問題としてとらえられる力を身につける</li> <li>・社会保障制度を取り巻く現状をきちんと捉えられるようになる</li> <li>・社会保障制度の抱えている課題について理解する</li> </ul>			
授業の計画と内容	第 1 講 社会保障制度はどうして必要なのか 第 2 講 社会保障制度の基本的な考え方 第 3 講 社会保障制度のしくみと賃金保障 第 4 講 年金保険制度(国民皆年金) 第 5 講 年金保険制度(負担と給付) 第 6 講 年金保険制度(年金制度改革) 第 7 講 年金保険制度(課題と展望) 第 8 講 医療保険制度(国民皆保険) 第 9 講 医療保険制度(高齢者医療) 第 10 講 雇用保険制度(失業に備えて) 第 11 講 労災保険制度(労働災害について) 第 12 講 高齢者福祉と介護保険制度(介護保険制度のしくみ) 第 13 講 介護保険制度の課題と展望(地域包括ケア) 第 14 講 社会手当制度(児童手当制度) 第 15 講 障害者福祉(障害者総合支援法)			
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末の筆記試験(90%)</li> <li>・レポート(10%)</li> </ul>			
テキスト	授業内でプリント配布			
参考書				
学生へのメッセージ				

科目名	地域福祉と包括的支援体制	Community Care and Inclusive Support System		
学科(専攻)・学年	社会福祉学科社会福祉専攻・2年	単位数	2.00 単位	
開講年度学期	令和5年度 前期	授業区分	講義	聴講可
担当教員	江原 勝幸			
ディプロマ・ポリシーとの関連	社会福祉学科 DP2、DP4			
授業の目的(GIO)	社会福祉基礎構造改革により 2000 年に改称・改正された「社会福祉法」では、これからの社会福祉を展開していく上で、「地域における社会福祉(地域福祉)の推進」がその目的(第 1 条)に規定された。市町村・都道府県単位の地域福祉計画・地域福祉支援計画の策定、権利擁護・苦情処理の方法、第三者福祉サービス評価・情報公開、包括的支援体制整備など、地域社会の中で個人が尊厳をもち、その人らしい自立した生活を送るための支援や共生社会の実現について取り組みが進んでいる。しかし、「地域福祉」という言葉や概念は長期にわたりあいまいなまま使用され、常に時代の変化に大きく影響されてきた背景があり、漠然としたイメージはあるものの明確に説明することが難しい。地域福祉の概念は広がり、大きく転換していることを踏まえ、本講義では、地域における福祉活動の原理・理論及びその構成要件や仕組みについて学び、求められている多職種・多機関連携に基づく包括的支援体制の考え方を理解することを目的とする。			
授業の到達目標(SBOs)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域福祉に関わる理論、歴史、構成要件、推進主体、実践方法、制度・施策、財源、地域福祉計画などの概要を説明することができる。</li> <li>2. 地域福祉の推進における施設の社会化について、その意味・役割及び問題点・課題を自らが実習体験した福祉施設を例に記述することができる。</li> <li>3. 福祉コミュニティの創造の具体案として、本学のハード・ソフトの資源を活用した地域貢献活動について企画することができる。</li> </ol>			
授業の計画と内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域福祉を学ぶにあたって:なぜ「地域共生社会」なのか?</li> <li>2. 地域社会の概念と変化</li> <li>3. 地域生活課題の現状と支援課題</li> <li>4. 地域福祉の歴史と動向</li> <li>5. 地域福祉の推進主体と主体形成</li> <li>6. 地域福祉の実践方法</li> <li>7. 共生社会の実現に向けた包括的支援体制(1):地域包括ケアシステム</li> <li>8. 共生社会の実現に向けた包括的支援体制(2):生活困窮者自立支援制度</li> <li>9. 共生社会の実現に向けた包括的支援体制(3):多職種連携・ネットワーク支援</li> <li>10. 災害時における包括的支援体制(1):発災から復興支援</li> <li>11. 災害時における包括的支援体制(2):平時の福祉防災活動</li> <li>12. 福祉行財政システムと地域福祉</li> <li>13. 福祉計画の意義・目的と種類</li> <li>14. 地域福祉計画・活動計画の策定と評価</li> <li>15. 地域福祉と包括的支援体制の課題と展望</li> </ol> <p>提出課題①:実習施設における施設社会化の現状と課題 提出課題②:福祉コミュニティ創造における本学の地域貢献活動への提言</p>			
評価の方法	授業への取り組み(20%)、授業内ワークシート(30%)、提出課題(50%)			
テキスト	使用せず、各授業時にレジュメ・関連資料等を配布する。			
参考書				
学生へのメッセージ				